

串本海中公園 マリンパビリオン

2002. 3

Vol. 31, No. 2



アントクメ

Eckloniopsis radicata

体はワカメやコンブを思わせる平たい形をしており、根部は細い根が固まってドーム状に盛り上がる。体の表面にはしわがあり、また写真のような白い小さな「斑」が点々とある。形態のよく似たものにヒロメがあるが、ヒロメは体に白い「斑」がなく、中央に盛り上がった中肋があることで区別できる。大きさは 50 cm 程度までになる。アントクメはコンブの仲間では最も南まで分布する種で、南は沖縄まで分布するが、釧浦では年により生育のよい年と悪い年があり、冬期水温が平年より低い年に生育がよい傾向がある。浅い海底の岩礁上に冬から初夏にかけ生育する。写真は釧浦地先水深 5 m の岩礁上で採集したもの。コンブ目。

S. U.

串本海中公園センター

ANTHOZOOLOGIA (78)

八放サンゴ類 その9

黒潮生物研究財団 岩瀬 文人

前々回 (Vol.29,p.10)、前回 (Vol.30,p.2) と 2 回にわたってチヂミトサカ科の属の解説を行った。今回はこれらの属の検索表を示す。

1. ポリプは共肉中に完全に退縮する；寒海性
9. *Gersemia* キタトサカ属
1. ポリプは共肉中に完全には退縮しない… 2

2. ポリプには明瞭な支持骨片束がある (Vol. 29, p. 56, 図 1 参照) …… 3

2. ポリプの反軸側には向軸側よりも明らかに大きな紡錘形骨片があるが、ポリプの上端に突出することはない (Vol. 29, p. 56, 図 1 参照) …… 7

2. ポリプには支持骨片束はない (Vol. 29, p. 56, 図 1 参照) …… 8

3. 群体は分岐せず、ポリプは分枝しない冠部から直接生じる (図 1a) …… 4

4. *Coronephthya* オオカントサカ属

3. 群体は分岐又は分枝し、樹状、灌木状、叢状などの形をなす (図 1e) …… 4

4. 群体の中軸部には骨片がぎっしり詰まっていて硬い；大西洋 (カリブ海含む) のみに分布する
13. *Neospongodes*

4. 群体の中軸部には縦に多数の管が走っていて、多少とも柔らかい；一般に紅海～インド洋～太平洋に分布する …… 5

5. ポリプは群体の冠部全体に個別に散在する

19. *Stereonephthya* ハナトサカ属

5. ポリプは群体の冠部から発する枝の表面に穂状に分布する

1. *Nephthea* チヂミトサカ属

5. ポリプは群体の冠部全体或いは冠部から発する枝の上に束や塊をなして分布する

6. *Dendronephthya* トゲトサカ属

亜属の検索…………… 6

6. 全てのポリプが群体外縁に並ぶため、冠部はカリフラワー状になる (umbellate : Vol. 29, p. 57, 図 2 参照) Subgenus 2. *Morchellana*
6. 冠部は細かく分岐し、末端の枝に 1 ～数個ずつのポリプが束になって分布する (divaricate : Vol. 29, p. 57, 図 2 参照)

Subgenus 3. *Roxasia*

6. 冠部は樹状に分岐していて、枝の表面には多数のポリプによる球形の塊が多数分布する (glomerate : Vol. 29, p. 57, 図 2 参照)

Subgenus 1. *Dendronephthya*

7. ポリプは群体の冠部から発する枝の表面に独立して分布し、穂状になる (catkin : Vol. 29, p. 56, 図 1 参照)

16. *Paraspongodes* ウミツゲ属

7. 全てのポリプが群体外縁に並ぶため、冠部はカリフラワー状になる (umbellate : Vol. 29, p. 57, 図 2 参照) 20. *Umbellulifera*

8. ポリプは基部から触手基部の背側に至るまで細長い棍棒形骨片にびっしりと覆われていて、肉質部は全く見えない (図 2d) ; 大西洋産 17. *Pseudodrifra*

8. ポリプには骨片が分布することが多いが、少なくとも骨片の間に肉質部が見えないほど密集してはいない …… 9

9. 群体は広がりのある共肉から複数の柄部が立ち上がり、樹林状または叢状になる (図 1f) …… 10

9. 群体は直立する柄部と分岐・分枝した冠部からなり、樹状または灌木状 …… 12

10. ポリプの食道部には細い針形骨片が多数分布する；触手には多数の骨片が分布する

…………… 11

10. ポリプの食道部には骨片は分布しない；触手の骨片はごくわずかに散在するか、または分布しない 11. *Lemnalioides*
11. 群体冠部は指状で、ポリプは冠部全体に一樣に散在する；ポリプは極めて伸縮性に富み、伸長すると長さ 10mm を超えるが収縮すると共肉上に疣状に盛り上がる程度にまで短くなる 15. *Paralenmalia* ウミワラビ属
11. 群体冠部は細かく枝分かれする樹状で、ポリプは冠部の枝上に散在または小さな塊をなして分布する；ポリプは短く、せいぜい 1～2 mm 程度で、収縮時にも花頭部は折り畳まれるだけで花柄部にはほとんど変化がない 10. *Lemnalia* ウミゼリ属
12. 群体は非常に細長い柄部と、その上の分枝して房状になった冠部からなる (図 1c)
14. *Pacifiphyton*
12. 群体は樹状や灌木状で、柄部は短い … 13
13. ポリプは花頭部が向軸側に曲がっている (図 2b) …… 14
13. ポリプは直立し、円筒形 (図 2a) …… 16
14. ポリプ花頭部は隔膜の配列に従って強く 8 葉にくびれている (図 2c)；冠部は輪生に

分枝する (図 1d) 3. *Chondronephthya*

14. ポリプ花頭部が強く 8 葉にくびれることはない；冠部は輪生に分枝しない …… 15

15. 群体内部の胃腔壁は厚く、多数の骨片が分布する；暖海性 2. *Capnella* フサトサカ属

15. 群体内部の胃腔壁は薄く、少量の骨片が分布する；寒海性 7. *Drifa*

16. 群体は短い柄部と、柄部の上端から単純な枝が放射状に発した冠部からなる (図 1b)

5. *Daniela*

16. 群体は樹状または叢状 …… 17

17. 全てのポリプが群体外縁に並ぶため、冠部はカリフラワー状になる (umbellate: Vol. 29, p. 57, 図 2 参照)；寒海性

8. *Duva* ヤワラトサカ属

17. ポリプは分岐した主幹から生じる小枝上に密生する；暖海性 …… 18

18. 群体には 0.8mm 以上の大きな紡錘形骨片があり、ゴワゴワした手触り

18. *Scleronephthya*

18. 群体には大きな骨片はなく、多肉質で柔らかい 12. *Litophyton* ヌメリトサカ属

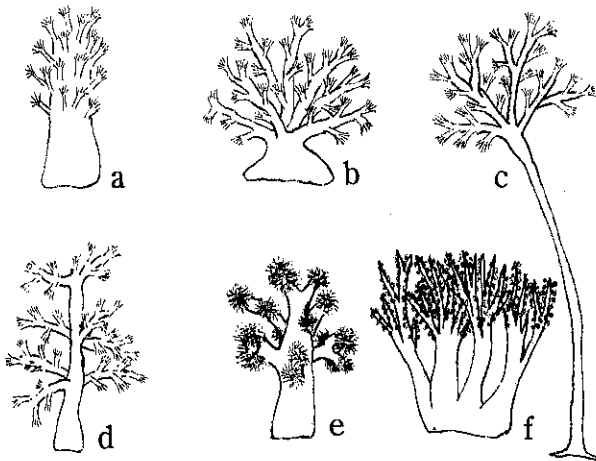


図 1. 様々な群体形

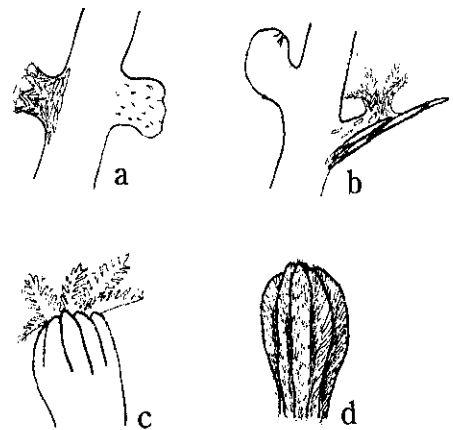


図 2. 様々なポリプ形

海中展望塔に集まる魚 (25)

2001年1月~12月

福田 照雄

本年(2001年)は119日の観察で150種が記録された。前年(2000年)の134種から大きく増加している。1998年の155種に次いで、2番目の記録となった。年間の平均水温は21.6℃で、前年(21.2℃)に比べて高めになっている。また、年間を通して平均値を下回することはほとんどなかった。黒潮はやや接岸傾向が続いたが、流路は不安定で、海況の変化が大きかった(本誌 Vol.31, No.1 参照)。年間の出現種数は大きく増加しているが、月別の出現種数をみると、1~3月は前年を下回っている。その後5月に急増し、6月は減少、7月に再び急増して10月には本年最多の100種が記録された。これは前年最多の79種(11月)を大きく上回っている。最低月(3月52種)と最多月の差は48種で、前年の28種(4月51種、11月79種)を大きく上回っている。各月の出現種数は前年と大きく異なった季節変化をみせた。

本年観察された150種のうち、前年との共

通種は107種で、前年みられず本年みられたのは43種であった。このうち、テリエビス、ハウセキキントキ、スミツキアトヒキテンジクダイ、イトヒキベラ、ブチブダイの5種が塔での初記録種であった。いずれも出現日数は少ない。このうち、イトヒキベラは100mほど沖にあるダイビングポイントでは優占種になっているので、意外な初記録種であった。また、前年に出現し本年みられなかったものは27種だったが、いずれも出現日数が少ない種であった。

出現率80%以上の種は18種で、タカノハダイとコガシラベラが80%以下になった他は前年との変化はなかった。コガシラベラは1999年とほぼ同じ出現率に戻っており、年によって出現率の変化の大きな種といえる。この他、塔南側のサンゴの生育によってチョウチョウウオ類が増加したのと、イシガキフグの減少が目立った。

前年に比べ、年間の出現種数の大幅な増加と各月の出現種数の変化に際だった違いがみられた反面、各魚種の出現状況には大きな変化がなかったのが本年の特徴といえる。

和 名	月	JFMAMJJASOND	日数
トラウツボ	-11111-	1111	15
ワカウツボ	1111111-	1111	16
ウツボ	1-1-1111	121-1	18
キビナゴ	55553111	13545	74
アカエソ	1-----111-	1-1	8
ボラ	11112211	12122	32
トウゴロウイワシ類	55311-	32235	49
ムギイワシ	55213333	22-4	53
オキザヨリ	-----	1122-	13
アカマツカサ?	11-11-	-----	4
テリエビス *	-----	1-----	1
ヘラヤガラ	-----	1-111	6
アオヤガラ	-----	1112-	11
カサゴ	21122211	11222	51
イソカサゴ	-----	1-----	1
オニカサゴ	-----	1-----	1
ハナミノカサゴ	--1-1-1-	1121	16
キリンミノ	-1-1-----	1	3
ヒラスズキ	---1-----	1	1
スジアラ	-----	1-----	1
クエ	-1-----	1	1
ハウセキキントキ *	-----	1-	1
クロホシイシモチ	55555553	35555	112
オオスジイシモチ	22222221	12222	86
スミツキアトヒキテンジクダイ *	-----	1-----	1
ブリ	-----	1-	1

和 名	月	JFMAMJJASOND	日数
カンパチ	-----1-----		1
ギンガメアジ	-----1-12-		9
カスミアジ	-----11---		3
シマアジ	-1-11-----		4
メアジ	-1-----2----		3
フエダイ	---1111111-		18
ヒメフエダイ	-----1		1
クロサギ	---11-11----		10
クロダイ	-----1-----		1
ヘダイ	-----11-		2
マルクチヒメジ	-----1111		8
コバンヒメジ	-----1---		1
リュウキュウヒメジ	-----1-----		1
オキナヒメジ (ホウライヒメジ)	222222222222		77
オジサン	1-----112222		38
ツマグロハタンボ	-----1-----		1
ミナミハタンボ	-----2-1-1		5
トゲチョウチョウウオ	22-11222222		63
チョウチョウウオ	222233433333		112
ゴマチョウチョウウオ	22221-----		38
ミゾレチョウチョウウオ	1-----2221-		34
ニセフウライチョウチョウウオ	-----1--1		2
アケボノチョウチョウウオ	-----1112		15
シラコダイ	---1-----		1
スミツキトノサマダイ	1-----11211		18
トノサマダイ	1-----23222		47

和 名	月 JFMAMJJASOND	日数
ヤリカタギ	-----11221	26
ミスジチョウチョウウオ	-----12222	43
フウライチョウチョウウオ	1-----111	11
サザナミヤッコ	-----111-121-	14
メジナ	555555555555	119
クロメジナ	545555455555	118
オキナメジナ	22221--11122	35
イスズミ	343332233334	104
テンジクイサキ	332222222332	104
タカベ	---11-----	2
カゴカキダイ	---11-1--1--	11
イシガキダイ	-----1-1---	4
ホシゴンベ	-1-111111111	20
タカノハダイ	222222222222	90
ミギマキ	---11-----	5
クマノミ	332222222233	111
アマミスズメダイ	---121-1111-	12
シコクスズメダイ	-----12221	29
スズメダイ	221-----	19
ササスズメダイ	2-----	6
ミツボシクロスズメダイ	-----11--	7
ハクセンスズメダイ	-----121-	18
イシガキスズメダイ	12-----12222	46
シマスズメダイ	-----111111	16
オヤビッチャ	332112233423	90
ロクセンスズメダイ	22111-1-2223	45
テンジクスズメダイ	-----12222	33
ソラスズメダイ	555555555555	119
セダカスズメダイ	333323332333	119
コブダイ	-----1-----	1
ムシペラ	-----1--	1
ブチススキペラ	22222222122	82
カマスペラ	-----1--	1
クギペラ	-----11212	19
セナスジペラ	-----1221	21
ニシキペラ	332333222223	118
コガシラペラ	23222-121111	61
ヤマブキペラ	232122233233	112
オトメペラ	332233222323	118
シマタレクチペラ	-----1121	15
ササノハペラ	223333233333	119
ホンソメワケペラ	232322222223	119
カミナリペラ	333232333333	118
ノドグロペラ	-----11--	2
ムナテンペラ	-----111-	5
イナズマペラ	-----11-1-	8
ホンペラ	222212211122	62
カンムリペラ	-----1-----	1
ナメラペラ (シロタスキペラ)	-----1--1	2
イトヒキペラ *	-----1--	1
モチノウオ属 sp.	1-----	1
ハゲブダイ	-----1--	1
ブチブダイ *	-----111-	4

和 名	月 JFMAMJJASOND	日数
ニシキブダイ	-----1121	16
ヒブダイ	221111122221	50
アオブダイ	11--11122212	41
ブダイ	333222222222	114
ブダイ科 spp.	-----1221	15
ヘビギンボ科 sp.	--1-111--1-	7
カモハラギンボ	-----1-	1
ニジギンボ	-----2-1---	5
テungkロスジギンボ	12--2222222	58
ミナミギンボ	-----1-----	3
ミノカエルウオ	1-----11211	21
クロユリハゼ	-----2-----	3
クツワハゼ?	122111111111	25
ハゼ科sp.	-----1--	1
アイゴ	221122211222	67
ハナアイゴ	-----1	2
アミアイゴ	-----1212	20
ツノダシ	1111211-1212	36
ナガニザ	21-----12222	54
ニジハギ	-----1	1
モンツキハギ	-----1-----	1
ニセカンランハギ	211122222222	63
クロハギ属sp.	-----1	1
サザナミハギ	-----12211	29
ヒレナガハギ	-----11-11-1	7
ニザダイ	222222222222	104
ヒメテングハギ	-----1--1	3
テングハギ	-----122221	31
アカカマス?	-----121-----	8
カワハギ	2-1111112111	33
アオサハギ	-----1-----	1
アミメウマツラハギ	-----1-----	1
メガネウマツラハギ	-----11--	4
ノコギリハギ	-----1-----	1
ハコフグ	222222222222	111
ミナミハコフグ	-----11--	3
ウミスズメ	212122212122	59
シマウミスズメ	222111112211	54
ハナキンチャクフグ	11111-1-11-1	11
キタマクラ	121222212111	52
シマキンチャクフグ	-----1--	2
クサフグ	1-----	1
シッポウフグ	--1-----	1
イシガキフグ	1-1111111122	33
ハリセンボン	-1-----1-11-	4

* は塔での初記録種

表中の数字は月の出現度

(1 : 少ない。2, 3 : 普通。4, 5 : 多い。)

	月 J F M A M J J A S O N D	計
観察日数	10 10 10 10 10 10 10 9 10 10 10 119	
種数	63 56 52 53 67 57 69 75 94 100 92 84 150	

POLYCHAETOLOGICA (20)

各科の属の検索と種の説明 (5)

サシバゴカイ科 No. 4.

内田 紘臣

前回 (Vol.30,P.64) では、サシバゴカイ科の2属 *Phyllodoce* と *Sphaerodoce* を示した。今回はその続きで、*Anaitides* 属について述べる。

属 *Anaitides* Czerniavsky, 1882

基本的に *Phyllodoce* 属に同じ。口吻の基部に乳頭状突起が左右6縦列ないし斜列をなして配列するのが基本 (属検索表, 図12参照)。さらにそれに加えて口吻背面正中上に1縦列の乳頭状突起をもつ種もある。口吻上の乳頭状突起列は各列間が詰まって、背腹正中線付近は広く平滑部となるが、口吻が先細りの種では左右の突起列は口吻先端で背腹で接するし、突起列間が開く種では突起列は口吻全周に分布する形態となる。さらに突起縦列がやや不規則になる種もある。これらの種では *Phyllodoce* 属との区別が判然としなくなる。さらには8列以上の突起列を口吻基部全周にもつ種もある。本属と *Phyllodoce* 属との差はこの突起の配列のみなので、両属の分離は判然としない。人によっては本属を *Phyllodoce* 属の亜属としたり、または *Phyllodoce* 属のシノニムとする人もいる。

本属の属模式種は *Anaitides groenlandica* (Oersted, 1843) である。この種の模式産地は、種名が示すようにグリーンランドで、北半球寒帯に分布する。体長 15 ~ 30cm。わが国ではアルバトロス探検の、駿河湾 63-75 尋のドレッジによるものが最初の記録 (Moore, 1903) で、それ以後三浦半島三崎 (Izuka, 1912) と、同じく葉山 (今島, 1968) があるが、著者は本種を得ていない。

Moore (1903) は種名と採集地とアルバトロスの採集 St. 番号のみで、本種かどうかを確かめることができない。Izuka (1912) は疣足の図があるが、その図は本種のもとは異なり、別種の可能性が高い。今島 (1968) も同じく疣足の図のみがあるが、この図は Imajima (1963)

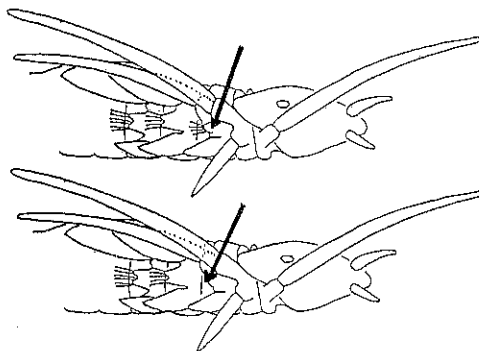
のカムチャツカからの図をそのまま使っていて、葉山産の標本からのものではない。葉山産のものは本種にしては著しく小型であり、別種の可能性がある。

属 *Anaitides* の種の検索

1. $1 + 0 \frac{1}{1} + S \frac{1}{N}$ 口吻基部の乳頭状突起は左右にそれぞれ6列生する；従って口吻基部の背腹正中部は乳頭状突起のない部分が広がる；口吻基部の背面正中には乳頭状突起の縦列はない 2

1. $1 + 0 \frac{1}{1} + 0 \frac{1}{N}$ 3

(上記の形態式は前回 (Vol.30,p.64) を参照)

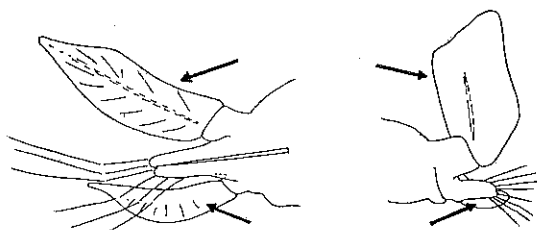


2. 疣足の腹触鬚は細長い；背触鬚も細長い

Anaitides elongata

2. 疣足の腹触鬚は楕円形で、細長くはない；背触鬚は四角形

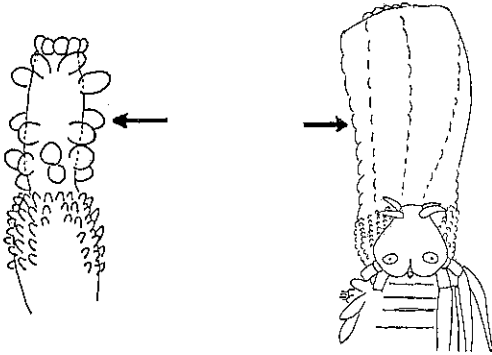
Anaitides maculata



3. 口吻基半分は乳頭状突起が並ぶが、端半分には大きな球状の突起が並ぶ；第3～4体節背面は黒色

Anaitides japonica

3. 口吻基部には乳頭状突起が並び、端部には背の低いコブ状突起が縦列する 4

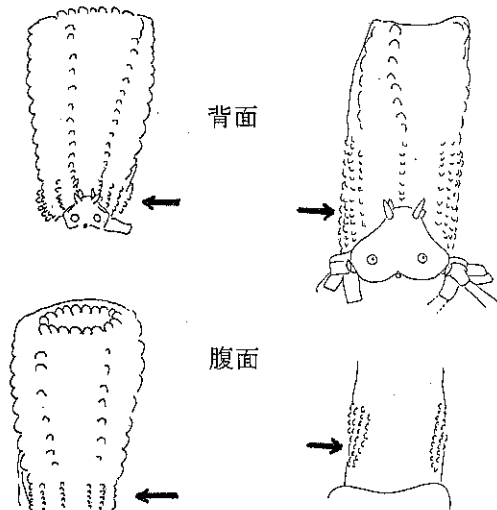


(左図腹面)

4. 口吻基部の乳頭状突起は左右に偏在せず、12突起列が口吻基部をほぼ均等に囲む；疣足の背触鬚は細長い葉状

Anaitides lamellifera

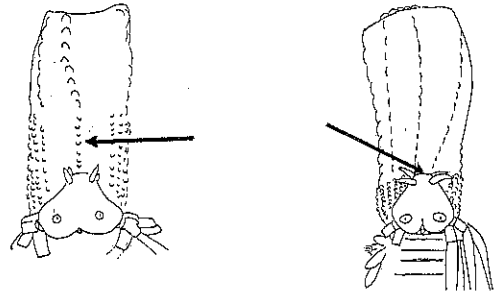
4. 口吻基部の乳頭状突起は左右に偏在し、それぞれ6列生するか、それに加えて背面正中線上に1列の乳頭状突起をもつ 5



5. 口吻基部の乳頭状突起は左右の6列に加えて背面正中線上に1列の乳頭状突起をもつ；口吻端部は六角柱状で、6縦列のコブをもつ

Anaitides tenuissima

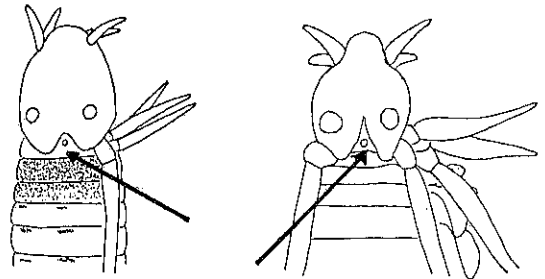
5. 口吻基部の乳頭状突起は左右にそれぞれ6列生し、背面正中線上には乳頭状突起をもたない 6



6. 体先端部の第1～3体節は背面で癒合する；第4～5体節背面は黒色

Anaitides australis

6. 少なくとも第2体節と第3体節は背面で分離する 7

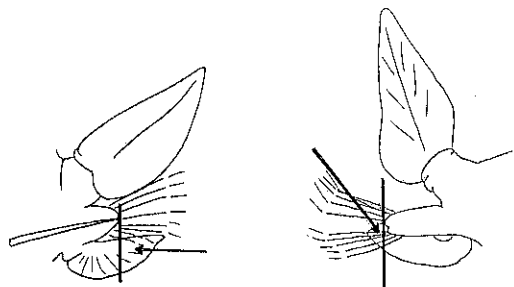


7. 疣足の背触鬚と腹触鬚とは共に長い葉状で、腹触鬚は腹疣足先端よりはるかに飛び出る；複剛毛の間接部に1本の大きな爪をもつ

Anaitides foliosopapillata

7. 腹触鬚は長い葉状でもなく、腹疣足先端からはるかに突き出るほど長くはない

Anaitides sanctijosephi

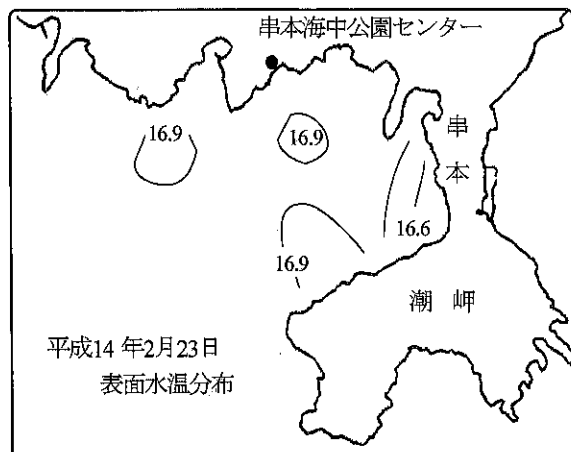
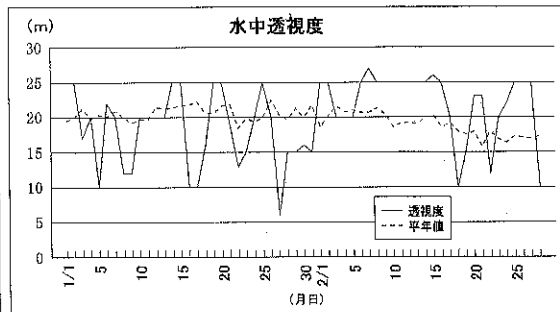
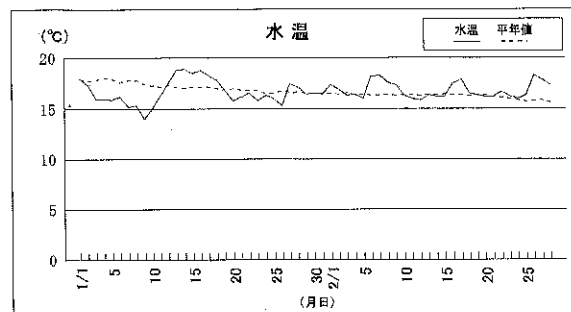
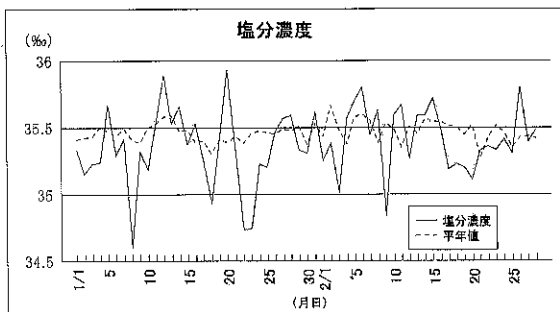
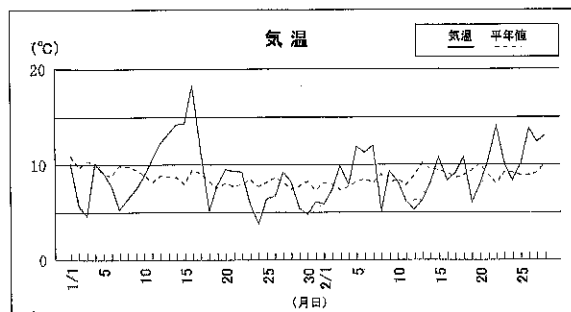


鯖浦の海から 宇井 晋介

平均値	1月	気温8.5℃	水温 16.7℃	塩分濃度 35.3 ‰	水中透視度 17.9m
	2月	気温9.3℃	水温 16.8℃	塩分濃度 35.4 ‰	水中透視度 22.1m

店先で売られていたイルカの加工品から、通常の 5000 倍もの水銀が見つかった。新聞記事によると「ウデモノ」と呼ばれるイルカの臓物をゆでたものらしい。捕鯨基地太地町を近くにもつ串本は、かつて捕鯨も盛んに行われていた。紀伊大島にはクジラの加工場もあった。当然ながらクジラ食も普通であり、今でもイルカやクジラの加工品が時折スーパーの棚に置かれている。「ウデモノ」と称して賞味されるものには、イルカなど鯨類のものとマグロ類のものがあるが、どちらも独特のシコシコとした食感が左党にはたまらない肴だ。しかし、どちらも食物連

鎖の頂点に立つ生き物であるから、重金属等は食物連鎖の階段を1段上がるごとにどんどん濃縮され、最終的に彼らの体内に蓄積される。陸域の開発に限界が見え始めた今、新世紀の食料事情は、いかに有効に海洋資源を利用できるかにかかっているという。こうした毒物の蓄積は、これまで乱獲されてきた彼らのせめてもの抵抗だと言うのはブラックジョークとしては面白いが、実際問題としてはとんでもなく深刻な問題だと言うことができよう。世界中の海が「ミナマタ」になったとき、我々は一体何を食べたら良いのだろうか。



マリンパビリオン Vol.31, No.2 通巻362号

一部100円 (年間購読料1,000円/送料含む)

印刷日 平成14年3月25日

発行日 平成14年3月31日

郵便振替口座番号: 00990-9-41351

口座名称: 串本海中公園マリンパビリオン

編集兼発行人

〒649-3514 和歌山県西牟婁郡串本町有田1157

(株) 串本海中公園センター

電話: 0735-62-4875 FAX: 0735-62-7170

<http://www.kushimoto.co.jp/>

印刷所 坂本印刷

串本町串本2481 Tel: 0735-62-0895